



「仕切ってつとめる」意味



青年会は年祭に向け、月に一度の布教実動日を決めて動き始めた

真朋

発行所
天理教芦津大教会
〒546-0003
大阪市東住吉区
今川8丁目6番32号
電話 06 (6702) 1980
FAX 06 (6700) 1854
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp
印刷所 天理時報社

……どうでも一つ、仕切り根性、仕切り力、仕切り智慧、仕切りの道、どうでもこうでも踏まさにやららん。

明治40年5月8日

「仕切る」という言葉は「一定の区間を区切ること」を意味しますが、私たちの年祭活動の場合、ただ単に日数を区切るだけではなく、「今までとは違う、今まで以上のつとめ方をする」といった意味合いがそこには込められています。

おさしづにお示しくださる「仕切り根性、仕切り力、仕切り智慧」とは、「こんなことがあるから無理だ、こういう事情があるから難しい」といった、今までの経緯や自分本位の考え方からくる躊躇^{ちゅうちよ}を断ち切り、どうしても神様の思いに応えようと、精神力の限り、力の限り、知恵の限りをふり絞ってつとめるところに、大きな御守護を頂戴できる、という意味でしょう。

大教会の神殿掃除や朝づとめに駆け付ける教会長。10時のお願いづとめに合わせ、本部神殿でおつとめを勤めるおちば在住者。時間を見つけて、十二下りのてをどりをする方、神名流しをする方、一軒一軒リーフレットを配布する方。それらは「どうでも教祖にお喜びいただきたい」との思いから、仕切って動き始めた姿です。

仕切るとは、いわば「思い切る」こと。たとえ小さな動きでも、今こそ思い切って何かを始める時です。

正面方加

ご本部の朝づとめに行くと、礼拝場の入口で「おはようございます」と一人の男性から挨拶をされた。知り合いの方かと確認するが、そうではなく、挨拶をお返しして通り過ぎた。よく見ると入ってくる方、皆に挨拶をされている。頭が下がる思いとともに、学生の時「挨拶は一言のにいがけ」と教示を受けたことを思い起こした。

コロナ禍だからこそ、相手を思いやる一言が大切に思えてならない。今の旬だからできることもあるはず。挨拶や手紙、電話やメール。自分が誰かにしてもらおうと嬉しいこと。私も知り合いの方々に誕生日のお祝いメッセージを送ることを始めてみた。

挨拶も一言に終わらず、「おはようございます。お元気ですか」と相手を気遣う言葉を添えて、にいがけを始めてみませんか。教祖が微笑んでおられる姿が目に見えんできます。

(木)

《2月次祭 挨拶》

教祖の道具衆としての

自覚と喜びをもって

大教会長 井筒梅夫

皆さん方には、時旬に相応しい成人を求めて、日々信仰実践にお励みくださいまして、誠にご苦勞様でございます。

また今日は、まだまだ寒さ厳しい中を大教会へご参拝くださり、共々に2月の月次祭を恙なく、結構に勤めさせていただきまして、ご同慶に存ずる次第でございます。月次祭にあたり、ご挨拶をいたしたいと思います。

さて、1月25日より、大教会において三年千日と仕切つてのお願いづとめが始まりました。初日は事分けて願い出てこられた人数は271名に上りました。また、今月も、私も何度かお願いづとめに出向いてきましたが、その中には200名を超える日もありました。

この方々の名前を一人ひとり祭文で奏上するのは、なかなか骨の折れることですが、この方々の後ろには、身上だすけ、事情治めに励む大勢の教会長、ようぼくがおられることを想像しながら、「ここには人をたすける誠真実がこれほど寄せられているんだな」と、実に感慨深く勤めさせていただいております。

お願いづとめが始まって約1カ月、年祭活動が端緒に就いた感

がいたします。

先回りの御守護

私は普段はおちばで勤めていますので、できる限り時間を合わせて、本部神殿で添い願いのおつとめを勤めさせていただいております。

先日、神殿でおつとめを勤め、教祖殿の合殿でのお願いを済ませて振り返ったところ、夫婦で参拝に来られていた直轄のようぼくとぼったりと顔を合わせました。このご主人は大変な身上を頂いていまして、早速御用場でおさづけを取り次がせていただきました。

教祖に「おたすけに勇んで励ませていただきます」とお誓い申し上げた直後の出来事でしたから、「教祖がお働きくださった」と、存命の理を実感しながらおたすけをさせていただきました。たすけ一条の心を定めて通れば、必ず教祖が先回りをしてくださり、おたすけの機会を与えてくださるに違いないと思います。

この三年千日は、何といっても「おたすけをしつかりとさせていたたく旬」であります。芦津の年祭活動の方針として「おつとめの勤修とおさづけの取り次ぎ」「人をたすけ、人を育てる（おたすけと丹精）」「ひのきしんと伏せ込み」の3つを掲げています。もちろんこの一つ一つは大切な信仰活動ですが、おたすけを中心に置けば、この3つの方針は一つに繋がるのです。

「丹精」とありますが、丹精をするにはおたすけが欠かせませ

んから、おたすけと丹精は二つ一つの関係にあるでしょう。そして、教祖から教えていただいたおたすけの最高無二の手段がたすけ一条の道、つまり「つとめとさづけ」です。さらにはおたすけの上に御守護を頂く理づくりとして、ひのきしんと伏せ込みをさせていただく。

このように考えれば、3つの方針はおたすけに集約されているのです。「おつとめの勤修とおさづけの取り次ぎ」「人をたすけ、人を育てる(おたすけと丹精)」「ひのきしんと伏せ込み」の3つを心に留めて、教祖百四十年祭を目指して、お互いにおたすけに勇んで励ませていただきたいと思っています。

私たちは親神様のお手引きによって信仰の道につかせていただいているわけですから、親神様は私たち一人ひとりに心をかけてくださっています。そして教祖は、ようぼくとしての働きに期待をかけてくださっているはずです。

私たちお互いは、今、教祖百四十年祭という同じ旬を通ら

ていただいているのです。この

親のお心にお応えできるように、
教祖の道具衆である自覚と喜び
をもって、たすけ一条に力強く、
心勇んで動き、働かせていただ
きたいと存じます。

皆さん方の時旬のますます勇
んだ歩みをお願いいたします。

(要約)

立教百八十六年 二月月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様の十全の御守護にお護り頂きまして、日々を恙なく結構にお連れ通り下され、時には節を与えてまで心の成人をお導き下さいます親心の程は、思えば有り難く勿体無い限りでございます。私共は、常に御恩報じを思い念じて、ひながたに学び、時旬の御用に努め励まして頂いておりますが、その中にも今日の吉日はおちばよりお許しを頂きました尊き日柄でございますので、只今から役目にあずかる者一同、座りづとめ、陽気てをどりを勇んで勤めて、二月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には、今日を大切な日と参き集いました芦津の道の子供達が、日頃賜る御厚恩に御礼申し上げ、奏でる鳴物に調子を合わせてお歌を唱和し、たすけ心いっぱいに共に勤める真実の状を御照覧下さいまして、親神様にもお勇み下され、たすけ一条の道の上によろづたすけの御守護を賜りますようお願い申し上げます。

さて、年祭活動三年千日の踏み出しに当たり、先月より直属教会、部内教会に順次、全教会一斉巡教を実施致しております。私共をはじめ芦津に繋がる教会長、ようぼくは、論達の精神に一手一つに心を結び、教祖の道具衆としての自覚と喜びを持って御教えの実践に動き働いて、仕切って成人の歩みを進めさせて頂く所存でございます。

何卒、親神様には、一同の勇み心と旬に尽くす真実を御心嬉しくお受け取り下さいまして、自由自在の御守護のまに／＼今日の時旬に相応しい成人の道をお導き下され、陽気世界へ向けての足取りを、一手一つに明るく勇んで進ませて頂けますようお願いの程を、一同と共に慎んで御願ひ申し上げます。

《2月月次祭 神殿講話》

年祭活動は

自ら考えてすぐに動こう

役員 岩切正義

1月26日に春の大祭が勤められて、いよいよ教祖百四十年祭に向けての年祭活動が始まりました。この年祭に向けてまずは動くということが大事だとされています。

下りのお願いづとめを勤め、国々所々でおたすけに励んでいる方々の後方支援となるように真剣に勤めています。

大教会では、この3年間の年祭活動方針として、「おつとめの勤修とおさづけの取り次ぎ」「人をたすけ人を育てる（おたすけと丹精）」「ひのきしんと伏せ込み」を掲げ、年祭活動1年目の活動目標として「日々の理の実践」おちば帰りと教会参拝（日参）の励行「お願いづとめを芯におたすけの実行」、この3つを心に置いて、まずは動いていこうということです。

大教会では、毎日10時より、祭文を奏上して身上、事情の方の名前を読み上げ、座りづとめ、十二

ですから、おたすけに動いている中で、身上や事情の方のおたすけをされる場合は、どうぞ、この大教会のお願いづとめに、名前を提出してください。そして大教会だけでなく、それぞれでもお願いづとめをしていただきたいと思います。

忘れられないおたすけ

前回の教祖百三十年祭に向かう年祭活動では、3年間、いろんな事が起きました。信者さんに身上をたくさん見せていただき、数名の主立つ方が出直したりして、大

変厳しいなと感じました。しかしその中で、不思議な御守護もいくつか見せていただき、ありがたい年祭でもありました。

今日は10年前、教祖百三十年祭に向けて「さあ、歩み出そう」としている時の忘れられないおたすけの話をいたします。

今から10年前の1月22日、私に1本の電話が入りました。当時59歳の女性Aさん。信仰は3代目です。病院の診察を終えて、すぐに電話をかけてくれたようです。私は大教会にいたので、「ご本部の春季大祭、少年会の年頭幹部会が終わったら、すぐに行くからね」と言って電話を切りました。

教会に戻ってすぐ、Aさんのところに行きましたが、Aさんを見てびっくりしました。もともと色白の方ですが、服から出ている顔や手が真っ白なのです。「どうしたの?」と詳しい話を聞いてみると、「骨髓異形成症候群」という病気でした。

この病気は、血液細胞のもとに

なる造血幹細胞に異常が起きて、血液の形が変わってしまい、自分の血液と認識しないので血液が無くなっていく病気だと、私は認識しています。

Aさんは医者から、「この病気を治す方法は骨髓移植しかありません。しかし、あなたの年齢、体格では、骨髓移植した後の拒絶反応、副作用に耐え切れません」と言われたそうです。そこで、輸血を3週間に1回のペースでやりましよう、ということになりました。しかし、輸血は何回もしていると、内臓に負担がかかっていくそうです。この時、本人には言われなかったみたいですが、家族には「2年持つかどうか」と言われたそうです。

このAさんは、ご主人とよく喧嘩をするのです。このご主人は、Aさんと結婚して信仰に理解を示してくださり、おつとめにも出てくれて、とても協力的な人です。そんな方と、なぜ喧嘩が絶えないのかと言うと、いろいろ理由は

あると思いますが、私から見れば、ご主人を立てていないところがあ
るのです。

そこで私はAさんに「優しい心
になって、これからはご主人を立
てて、夫婦仲良くなる努力をして
みてはどうですか？」と言いまし
た。するとAさんは、ご主人のと
ころに行つて土下座をして「大変
申し訳ございませんでした。私の
心得違いでした」と深々と頭を下
げて謝られたのです。

言われたご主人は、「お前がそこ
までするなら、御守護いただける
ように頑張ろう」ということにな

りました。

人たすけて我が身たすかる

それから、毎日おたすけに通い
ました。通う中で、Aさんに、「お
道では『人をたすけて我が身たす
かる』と聞きます。まずは一緒に
布教に出ましよう」と言つて、戸
別訪問に連れて行きました。

その夜、電話がかかつてきて、
「会長、きつか！ そして怖いで
す。体力がなく、抵抗力もないの
で、他の病氣をもらつては大変な
ことになりますので、無理です」
と言われました。私も配慮が足り
なかったと反省しました。

しかしAさんは、その後もご近
所の家を一軒一軒回り、「自分は、
こういう病氣になりました。私は
天理教の神様にたすけていただき
ます」と言つて回っていました。
凄いなと思いました。

私はおたすけに通う中で、一緒
に住んでいる娘さんに、「お母さん
の身上を御守護いただくために、
月次祭の日は仕事を休んで月次祭

に参拝してみてもどうか」と言い
ました。娘は、「会社に相談してみ
ます」と言い、翌月から月次祭の
日は仕事を休んで参拝するように
なりました。

理立てはありがたい

3回目の輸血の前におたすけに
行くと、Aさんが、「これは理立て
です」と言つて、お供えを頂きま
した。Aさんにとっては大きなお
供えだったと思います。「わかり
ました。大教会に運ばせていただ
くからね」と言つて、すぐに運ば
せていただきました。

すると3回目の輸血後から、体
調が良くなりました。これまで輸
血しても体調があまり良くなかつ
たのが、輸血後、気分が悪くなら
なくなりました。

理立て、お供えというのはあり
がたいですね。こうやって不思議
な事が起こるのです。

しかし気分が悪くならず、体調
が普通に戻ったら、だんだんとA
さんの癖性分が出てまいりました。

徐々にご主人のことを悪く言うよ
うになってきたのです。

神様のお言葉に、

神の自由じゆうして見せても、その時
だけは覚えて居る。なれど、一
日経つ、十日経つ、三十日経て
ば、ころつと忘れて了しまう。

明治31年5月9日

とあります。

世間でも「喉もと過ぎれば熱さ
忘れる」などと言いますが、人間
は本当に、すぐに忘れてしまうの
です。

おちばに帰らせていただいて

そこで、Aさんには、娘さんと
姪っ子さんに別席を運んでもらう
よう、促しました。

10年前の教祖百三十年祭へ向か
う年祭活動1年目に、大教会では
「初席者1千名の御守護、中席者
の丹精」という、大きな心定めを
していました。

Aさんは、娘さんにあと数席残
つていた別席を運ばせて、おさづ
けの理を拝戴していただき、姪っ



子の1人に別席を運ばせて、別席運び中のもう一人の姪っ子さんも、おさづけの理の拝戴をするように促しました。

6月のある日、Aさんが「新しい治療法があるから、7月からやってみないか、と主治医の先生から言われました」と言ってきました。それは、内臓の負担を軽減するための治療法で、3週間に1回の輸血を、4週間に1回にする治療法だということです。

それを聞いて私はAさんに、「その治療法を受ける前に、おちばに帰って、6月のご本部の月次祭に参拝しませんか」と言いました。「抵抗力がなく、人ごみの中に行くのが怖いので、ちょっと考えさせてください」と言われましたが、次の日にAさんから「おちばに帰らせていただきます」と返事があり、思い切って6月の月次祭に参拝することになりました。

ご本部の6月の月次祭。暑い中でしたが、マスクを着けて、細心の注意を払いながら、神殿の最前

列に座り、かんろだいの近くで、祭文奏上から神殿講話が終わるまで、真剣に参拝しました。

そして7月から新しい治療にかかりました。あれから今日まで9年7カ月経りましたが、それ以来、1度も輸血をしていないのです。本当に不思議です。Aさんのことをよく知っている看護師の信者さんが、「会長さん、Aさんのあの身上は御守護としか言いようがありません。すごい御守護ですよ」と言ってきました。

ただこの病気は完治はしないと言われています。発症から10年。本当に不思議な御守護を頂いていると思います。さすがに10年が経ち、歳も取りましたので、夫婦での小競り合いはありますが、大きな喧嘩はなくなりました。

自ら考えて動く

私たちは、大きな身上や事情を御守護いただいた方は、心が変わり、おたすけに熱心になると思っているところがありますが、みんながみんな、そうではありません。どちらかと言うと、そうなる人の方が珍しいように思います。癪性分は、なかなか変わりません。

教祖の御在世中も、大勢の方がたすけられましたが、残られた方は、ほんの一握りです。ほとんどの人が、たすけていただいてあげたいと思っても、それで終わっています。その中で御恩を感じて、御恩報じをされた方だけが残っているのです。

Aさんを見ると、どうして神様はたすけてくださったのか、理由を知りたくなることがあります。

そこで、Aさんやその関係する人が何をしたのかを振り返ってみます。

①まず診察を終えて出てきてすぐ、神様を頼って私に電話してきました。私は神様ではありませんが、私を通してお願いをしたわけですから、すぐに神様にたすけを求めてきたのが良かったのか。

②自分の心遣いを反省して、主人の前行き、土下座してお詫びしたのが良かったのか。

③ご近所に「神様の御守護を頂きますから」と、にをいがけに歩いたのが良かったのか。

④娘がお母さんのために仕事を休んで、月次祭に参拝したのが良かったのか。親を思う子供の気持ちを受けとってくださったのか。

⑤理立てをしたのが良かったのか。裕福な家庭ではありませんが、思い切ってお供えをしたのが良かったのか。

⑥娘、姪に別席を勧めたのが良かったのか。大教会の声に合わせて、娘、姪が一つ成人したのが良かったのか。

⑦必死の思いで、おちばに帰ったのが良かったのか。親神様・教祖を頼って、おちば帰りをしたのが良かったのか。

⑧会長が毎日3時間かけておたすけに通ったのが良かったのか。

いろいろなことを挙げてみましたが、神様は何を受け取ってくださったのでしょうか。

二月月次祭										祭典役割					
胡三味線 弓		小太拍ち すりがね鼓子木ちゃんぼん笛		地 方		てをどり		扨 者		扨 者		祭 主			
奥井今 田筒川和 富ちぐさ 美子		瀧奥井今竹 本田正敏政義 庄徳成治忠洋		奥川瀧 田畑眞澄二 眞治博郎		中前会守井大 村会长田筒教 美長夫清文会 津夫人一夫長		座りつとめ		山田道弘		岩切正教		大教会長	
岩松宗 切本さ邦 孝だえ代 子		木梶浜立立西 村川田花花草 真芳宣善善義 次男郎三文之		石梶吉 川川田 健和裕 郎隆和		山松瀧葭岩山 埜森本内切本 こ森基正正義 ず明志浩義範		前 半		賛 者		賛 者		指図方	
加河岩 世合切 陽ふみ子 子代		今梶岡湯瀧新 川川本川本居 聖和人昭信亘実		川西奥 畑本田 正興正 博正儀		奥木竹榎吉樋 田村内康田川 千理淳裕泰 晶恵子紀樹士		後 半		村田光伸		河合善洋		湯川正園	
										伝供		守田清一		献饌長	
在籍者一同															

芦津分会初例会

青年会芦津分会（井筒敏成委員長）は、1月25日午後6時より詰所で芦津分会初例会を開催。常任委員と部属分会委員長を合わせて24名が参加した。

井筒委員長より、年祭に向かって「あらきとよりよう指針」に沿った活動を展開する旨と、本年の活動方針「たすけ一条の喜びに徹し、世界たすけの先達となろう」が発表された。また、年祭活動三年千日に入り、成人の道を歩ませ



対話の時間ではさまざまな意見を交換した

ていただきたいとの思いから、月に一度、布教を中心とした常時活動を実践していくことも発表された。

その後、各部連絡、対話の時間、親睦会が催された。

この日は、寒波や積雪の影響があり、遠方からの参加者は飛行機が飛ばず、急遽欠席となった会員も多数いたが、参加者からは対話を芯に勇んだ意見が聞かれた。

ある会員は「仕事やコロナ禍の影響で青年会行事に参加できなかったが、今回活動の内容を聞いて、この三年千日をみんなが真剣に考えて取り組んでいるのが分かりました。私自身、年明けよりふしを見せていただいたこともあり、これから会活動に積極的に参加せねば、と感じました」と話した。

◇ ◇ ◇

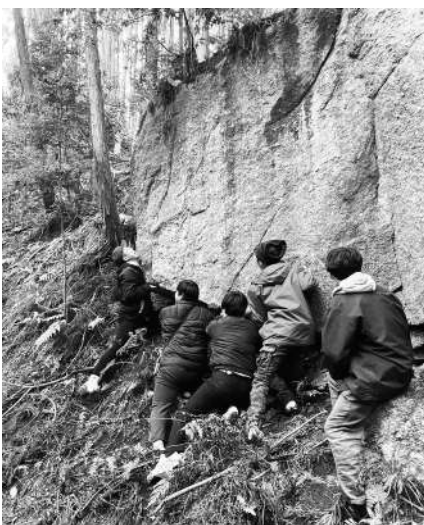
青年会は、年祭活動の三年千日を仕切り、芦津に繋がる全教会を対象に、何か教会のお役に立てるようにとの思いから「役立ち隊」を結成します。困っている教会に足を運びますので、希望される教

会は、青年会芦津分会までご相談ください。

かんろだいの石普請現場見学

青年会芦津分会は、2月26日午後から、かんろだいの石普請に使用された石の切り出し場所の見学に行った。これは、「先人の軌跡を学ぼう」をテーマに、先人の思いを感じ、勇み心をもって年祭活動に力を入れようと企画したものである。

明治14年、おぢばの東、滝本村から、かんろだいの石出しが行われた。教祖は、山から麓までを眞明組にお命じくだされ、井筒梅治



滝本山の石出し現場

郎初代様をはじめ、先人先輩方が勇んでひのきしんに励まれた。その現場を見学し、当時のご苦労と勇み心を学ぼうと、青年会員9名が参加した。

現場を目の当たりにした参加者からは、「こんな大きな石を、麓までどうやって下ろしたのか想像がつかない」「先人方の思いを引き継ぎ、年祭活動を一生懸命させてもらいたい」との感想が聞かれた。勇み心を頂戴した青年会員たちは、この後すぐ、天理市内で神名流しに励んだ。

女子青年初例会

婦人会女子青年（北村はぎ乃委員長）は、1月29日、親里で初例会を開催。女子青年14名が参加した。

午前10時に詰所に集合し、本部神殿で参拝の後、回廊拭きひのきしんを行った。

詰所に移動した後、昨年11月の「女子青年

大会」で頂いた真柱様のメッセージを拝読した後、井筒年子・婦人会芦津支部長よりお話があった。続いて、ねりあい。真柱様のメッセージで印象に残ったお言葉や、これから三年千日をどのように通るか、女子青年としてできることなどについて語り合った。

昼食は、たこ焼きパーティー。和気あいあいと楽しい時間を過ごした。



学生参拝デー、卒業生送別会

1月15日、芦津学生会（木村里香委員長）は、親里で「学生参拝



デー」と「卒業生送別会」を実施し、高校生11名、大学生8名が参加した。

午前11時、本部北礼拝場でおつとめ。教祖殿、祖霊殿で参拝した後、西回廊で回廊拭きひのきしんを行った。

その後、詰所に移動し、卒業生送別会を開催。全員で会食し、楽しい時間を過ごした。最後に、卒業を控えた生徒一人ひとりがお礼の言葉と今後の進路などを発表し、木村委員長よりお祝いの品が贈呈された。

学生生徒修養会開催

3月4日から8日の日程で、本部主催の「学生生徒修養会・大学の部」が、同10日から12日までは「同・高校卒業生コース」が、親里で開催された。

芦津からは大学の部に5名、高校卒業生コースに7名が参加。仲間と共に教えを学び、かけがえない時間を過ごした。

受講した学生からは「新しい友達ができ、たくさん話ができ、楽しい時間が過ごせた」「班のみんなとおつとめまなびをして、一体



大学の部の参加者



高校卒業生コースの参加者

感を感じることができた」「班長になって、まとめるのが大変だったが、最後にみんなから感謝の言葉を頂いて、やってよかったと思う」などの感想が聞かれた。

参加者は左記の通り。

大学の部

石川晋一（直轄）、西窪幸一（東淀川）、西窪美香（同）、畠山琴葉（芦玉）、奥田陽人（周宝）

高校卒業生コース

河合乙音（直轄）、宮脇里奈（津阪）、山下桃花（芦山都）、岩切直大（四ツ山）、白谷莉瑚（同）、瀧本早紀（紀周）、上田絃央（同）

事情はこび

立教186年2月26日お許し
和阪分教会

任命

四代会長

好光教雄 48歳



天理大学宗教学科卒業。平成8年おさづけの理拝戴。平成17年修養科第768期修了。少年会本部出版部に4年間勤務の後、大教会青年を2年勤めた。
就任奉告祭 5月21日

教務部報

教人登録

加藤もとえ (鳥 栖)

立教186年3月8日

教人資格講習会第128回修了

加藤もとえ (鳥 栖)

緒方千代子 (鳥 栖)

立教186年2月10日

おさづけの理拝戴《1月》

高瀬祐太郎 (荻田町)
星原 笑里 (荻田町)
樋川 光里 (甲 邊)
菊池 まい (和 鎮)
太安 善明 (直 轄)
澤村 類 (直 轄)
大橋 利玖 (直 轄)
内海 大地 (直 轄)
倉橋 佑月 (直 轄)
島田 郁 (直 轄)
高橋 治大 (直 轄)
木村真太郎 (芦明徳)
川越 功喜 (直 轄)
《拝戴日順 13名》

初席《1月》

《5名》理風
《2名》直轄、稗島
《1名》吉野川、福、芦山都、
神の島
《順序運びより 13名》

月例統計 (自令和5年1月1日) 至令和5年1月31日)

項 目 名 称 () 内教会数	初 席	の お 理 さ づ け 戴	修 養 科 修 了	教 人
大 教 会 (1)	2	8		
東 津 (13)				
吉 野 川 (29)	1			
島 原 (16)				
日 方 (15)				
稗 島 (7)	3			
本 津 (2)				
日 高 (2)				
始 良 (5)				
津 和 (12)		2		
門 司 (6)				
當 別 (6)	6			
大 島 (26)				
沖 縄 (3)				
尼 崎 (2)				
四 ツ 山 (5)				
大 冠 (2)				
島 下 (1)				
天 保 山 (3)				
青 木 (1)				
芦 浪 (1)				
甲 邊 (1)		1		
芦 華 (1)				
天 津 (1)				
入 江 (1)				
豊 野 (1)				
紀 周 (3)				
勝 明 (1)				
神 の 島 (1)	1			
兵庫眞洲 (1)				
芦 ノ 郷 (2)				
本 明 勇 (2)				
明 道 (1)				
芦 東 (1)				
和 鎮 (3)		1		
神 滝 本 (1)				
芦 明 徳 (1)		1		
眞明彰化 (2)				
本 氣 (2)				
芦 明 照 (1)				
眞 伯 (1)				
合 計 (209)	13	13	0	0

青年会

芦津分会総会

5月28日(日) 大教会

午前10時開会

おつとめ、式典、直会

立教186年 芦津分会活動方針

たすけ一条の喜びに徹し、
世界たすけの先達となろう